



「共に学ぶということ」～交流活動～

今年度、ゆり支援学校（本校）高等部1年生や音楽部と、間接的ながら交流活動を積み重ねてきました。

道川分教室では、平成15年度末に本荘養護学校が閉校し分教室となって以降、本校である秋田養護学校・ゆり支援学校と定期的に交流活動を行ってきました。また、地域の岩城小学校（旧 道川小学校）とも、開設以来ずっと交流を深めてきました。

多くの児童生徒が分教室を訪れ、また、分教室の児童生徒も本校へ行き、楽しく充実した活動を行ってきました。

当時の写真に見る児童生徒達の笑顔からは、同年代の子ども達が、時間、楽しさ、感動などの共有を通じた、充実感あふれる感情の様子が伝わってきます。そして、この充実感の先に、一人一人の学びがあったであろうことを想像します。

このような交流活動も感染症対策等により、実施が難しい状況になっています。

そんな中、道川分教室の閉室を知ったゆり支援学校（本校）高等部1年生が、「道川分教室のために何かできることを」と声を挙げてくれ、交流活動をスタートさせました。

本校の高等部1年生は、道川分教室を知ることから学習を進めました。分教室の職員にインタビューしたり、分教室の学習の様子を映像等で見たりしながら、理解を進めてくれました。そして、動画でメッセージや歌を届けてくれたり、閉室式の演出の協力をしてくれたりしました。

交流を積み重ねる中、「直接は会えないけれど、分教室のみんなが学んでいる場所を見たい」という想いが湧いた本校の生徒達。2月9日に、あきた病院への校外学習を計画し、訪れてくれました。

当日は、分教室生徒の作品が飾られているギャラリーを見学した後、病院敷地内にある「いこいの家」と病棟をオンラインでつなぎ交流を行いました。互いに自己紹介をした後、本校生徒からの歌のプレゼントがありました。

本校生徒からの元気な呼びかけに、分教室生徒も自分たちの表現でめっぱい応えることができました。うまく言葉にできませんが、とても温かな感動をおぼえました。

本校生徒からの「これからも体に気をつけて、元気に頑張ってください」という言葉で交流を終えました。

道川分教室のことを丁寧に学び、その上で交流活動を進めてきた本校生徒達の温かさが凝縮された言葉でした。

—ゆり支援学校（本校）高等部1年生との交流（2月9日）—



【ギャラリー見学】



【本校生徒】



【分教室生徒】

—過年度の交流—



【平成17年度秋田養護学校本校】



【平成17年度道川小学校】



【平成29年度ゆり支援学校本校】